

自立可能な第3の働き方を実現

豊能障害者労働センター

代表 小泉祥一さん



障がいがあっても働いて、市民として当たり前に暮らしたい——そうした障がい者の就労と自立への夢を、大阪・箕面市では全国でも珍しい「社会的雇用」という制度で実現しています。制度誕生の発端となった、豊能障害者労働センターの代表・小泉祥一さんに聞きました。(副代表・新居良さん同席、写真は同センター提供)

しかし、重度障がい者、一般企業への就職は極めて困難でした。この状況は今も、ほとんど変わりません。どこにも行く所がない、と感じた私は、翌年、障がい者2人を含む6人で「豊能障害者労働センター」を設立。障がいのある人もない人も、共に働いて、給料を分け合うという活動を始めました。まずは粉せつけんの袋詰めと販売から。その後、リサイクル店や飲食店を開業し、Tシャツやカレンダーの通信販売、視障がい者向けに点訳を行うなど、業務を拡大。今では、障がい者37人を含む61人が働き、年間売り上げは1億円近くに達しました。



オリジナルを制作した耕すTシャツ



味のある字体、でTシャツのデザインをかく小泉さん

これは、当センターなどの事業所が①重度障がい者4人以上、かつ全職員の3割以上雇用②障がい者自身が経営に参加③最低賃金を守る④などの条件を満たしていると認定される。障がい者の賃金は4分の3を市が補てんするもの。全国に先駆けて86年から整えられてきた制度で、今では、一般財団法人・箕面市障害者事業団を通し「援助者」として共に働く健常者スタッフや、設備などに対しても助成金を受けられます。



このうち約半数の人が、働いたくても仕事がない状態です。市の試算によると、非就労しているよりも社会的雇用で働いた方が、障がい者にかかる社会的コストが削減できるのではないかと、私は何となく、障がい者が働く場をもち、援助者や市民らに支えられて仕事を体験し、人々につながることを重視しています。保護・訓練・指導するという、従来の福祉の考え、従来の福祉の考え、提供しています。

「お金の動定が善手なある障がい者スタッフは、レジの仕事をする障がい者スタッフに渡すお釣りを正しくお釣りにする。仕事はうれしく」と喜びを。その間、お客がかわつたり、いちいち立ったりという貴重な経験もしています。人は個性が豊かからこそ、集まるべきな「力」になり、それが障がい者の生き力になるのだと思います。当センターでは、皆で活動に加わるの意で「フラスワ」会員という支援者を市民から募っています。

個性の違いは力なり

一般就労と福祉的就労の「谷間」を埋める制度もある。「社会的雇用」は、障がい者の「第3の働き方」ともいえるのです。非就労の障がい者は全国で約200万人。

食器や衣類などのリサイクルショップの人は障害者も多い

豊能市の福祉センター内で、お釣りを渡す障がい者スタッフの店舗「ゆめ」

豊能市の福祉センター内で、お釣りを渡す障がい者スタッフの店舗「ゆめ」

当たり前に生きたい

1981年(昭和56年)、高等部3年の私は、就職活動を。同年は障がい者の「完全参加と平等」をテーマにした「国際障害者年」で、社会活動への参加に希望が膨らみました。



一人一人の能力を発揮し、機関誌の発送作業を行う豊能障害者労働センターのスタッフたち(大阪・箕面市で)

行政が賃金を補てん

一般的に、障がい者が「福祉的就労」として、授産施設等で毎日作業をして収入は月2万円ほど。自立した生活は望めません。しかし、当センターは大阪府の最低賃金、時給786円を保障。週30時間ほど1カ月働くと、給料は、親と同じの障がい者約9・5万円。それ以外の障がい者、健常者は12・5万円、15万円程度。『障害基礎年金』と合わせて月20万円程度の収入となり、「自立生活」が可能。実はここに、箕面市独自の「社会的雇用」という制度が、大きな

労働と福祉の谷間を埋める 大阪・箕面市の「社会的雇用」

被災者の支援活動も

私は、障がい者も市民として、当然前に働いて、自立した生活されるべきだと、タキを設立しました。就労以外にも、他に困っている人がいれば助け合っていくのも当然です。95年(平成7年)の阪神・淡路大震災では、機関誌「積木」等と呼び掛け、全国から寄せられた支援物資の「中継基地」として当

センターを活用。バザーによる救済金と共に、被災障がい者を支援しました。

今、日本では、障害者自立支援法に代わる「障害者総合支援法」について、活発な議論が行われています。

「被災者から、被災障がい者支援(ゆめ)基金」と協力し、バザーや通信販売の収益の一部を救済金に、被災地の障がい者センターと協働で支援活動も行いました。当センターは本年、設立30周年。障がい者の自主事業が、市の助成金や、地元をはじめ全国の多くの市民に支えられてきました。



多くの参加者でにぎわった昨年の春のバザー。(戸原公園で)

豊能障害者労働センター主催の「みんなであつくる春のバザー」が今年26日(土)、箕面市立マイナルホールと戸原公園で開催されます。午前11時〜午後3時。雨天決行。また6月24日(日)には、同センターの設立30周年記念イベント「伊奈かっぺい&伊藤君子ライブ」を箕面市立マイナルホールで開催。チケット販売などを詳しくはホームページ(http://www.tamiki.com/)をご覧ください。